

広報

ただみ

7
2018 月号
No. 578
平成30年7月10日



今月の表紙

今月の表紙は、6月17日に行われた「トリムウォーク&トリムラン」で、競技を楽しむ仲良し親子です。

自分でゴールタイムを設定できるこの競技では、親子連れや高齢者、車いすの方などの姿が見られました。選手の皆さんは、無理なくマイペースで大会を楽しんでいました。

(関連記事:P10~11)

<特集>

- 「只見町プロジェクト」始動…………… 2～9
- 「トリムウォーク&トリムラン」…………… 10～11
- 「只見雪むろまつり」
- JR只見線「起工式」…………… 12～13
- 《News&flash》…………… 14～15
- 《町の話》…………… 16～19



集 只見町の未来を考える 特 只見町「プロジェクト」始動！

町では、本年4月より「只見町プロジェクト」をスタートしました。このプロジェクトは、只見町が抱える人口減少など様々な課題に対応していくために、職員のスキルアップを図る「人材育成」と、組織の隔たりを越えて検討する「プロジェクトチーム」の2本柱で取り組んでいます。

本号では、このプロジェクトについてご紹介いたします。

―プロジェクトの背景①

自治体消滅の可能性―

2040年、只見町の人口は3千人以下になる。町の将来の人口構造および産業・経済などの現状を分析した「只見町人口ビジョン」では、そう推計されています。只見町の本年6月1日現在の人口は4,267人で、2040年には約3分の2に減少すると予想されています。

また、経済界や労働界の代表、大学教授などの有識者で組織する「日本創成会議」が平成26年5月に公表



つなぐ。

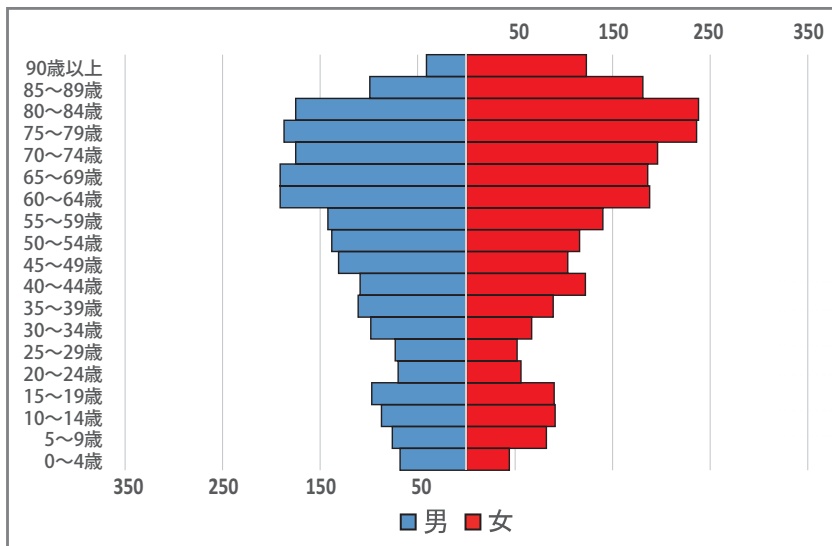
未来を担う

子どもたちのために――

した2040年の人口予想では、全国の1800市区町村（政令市の行政区を含む）中の49・8%にあたる896自治体が、少子化や人口流出に歯止めがかからず、存続できなくなるおそれがある「消滅可能性都市」に該当すると発表されました。この発表に福島県内の自治体は含まれていませんでしたが、多くの自治体が大きな危機感を持ちました。

このように、人口減少問題は、自治体そのものの機能が維持できなくなる可能性があり、そうなる前に早めの対策が必要です。只見町でも移住・定住、就業・企業支援、就農支援、子育て支援など様々な施策を展開しておりますが、さらにこの問題に向き合う必要があると考えました。

【図1】平成27年時点の只見町人口ピラミッド(只見町人口ビジョンより)



【図2】総人口及び年齢3区分別人口の推移(只見町人口ビジョンより)

		総人口	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)
実数	平成27年 (2015年)	4,614	440	2,145	2,029
	平成32年 (2020年)	4,166	328	1,930	1,908
統計値	平成37年 (2025年)	3,729	256	1,769	1,704
	平成42年 (2030年)	3,327	244	1,583	1,499
	平成47年 (2035年)	2,982	233	1,407	1,342
	平成52年 (2040年)	2,660	202	1,228	1,229

プロジェクトの背景②
只見町が抱える課題
全国的に少子高齢化による人口減少が社会問題となっており、只見町もこの問題に直面しています。図1のとおり、只見町も若者が少なく高齢者が多い少子高齢化となつていますが、特に問題視されるのが若い人が極端に

少ないことにあり、この少子高齢化が多くの問題をもたらすと考えられています。まず、挙げられるのが、労働力不足です。労働力の中心となる15～64歳の生産年齢人口を見ると、20歳代が他の年代と比較して特に少なく、生産年齢人口の減少が指摘されています。20歳代が減少

している理由の一つとして、進学や就職による転出超過が考えられます。生産年齢人口が減少すると、生活関連サービスが縮小します。日常生活に必要な小売・飲食・娯楽・医療機関などの各種サービスは、一定の人口規模のうえに成り立っています。人口減少によってこうしたサービ

ス産業の衰退が進み、生活に必要な商品やサービスを受けることが困難になり、さらにサービス産業の衰退は地域の雇用機会の減少へとつながります。この他にも、下記のような様々な問題が懸念され、さらなる少子化・人口減少を招くことが予想されます。

また、図2のとおり2040年の只見町の人口は2,660人になると予想され、年少人口は平成27年と比較し約半減しています。さらには、生産年齢人口と高齢人口の数字がほぼ同数となると推測され、このような状態を避けるためにも今から何ができるか考えていかなければなりません。

プロジェクトの背景③
取り巻く環境の変化

只見町を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。それは、JR只見線の再開通と国道289号八十里越の開通です。只見線は20

— 人口減少により考えられる問題 —

- ・労働力の不足による産業の衰退
- ・雇用機会の減少
- ・公共交通の弱体化
- ・空き家や耕作放棄地などの増加
- ・地域コミュニティ機能の低下
- ・税収減による行政サービスの低下
- ・保育所や学校などの統廃合 など

21年度に再開通を目指しており、国道289号八十里越の開通は2023年に見込まれるなど、今後5年間で町の将来にとって重要な事業が続きます。

そこで町では、それら交通網の整備を最大限追い風とし、人口減少などの諸課題を克服していくために、本年4月から橋本副町長を中心とした「只見町プロジェクト」をスタートさせました。



▲5月23日に新国勇ブナセンター長を迎え、ユネスコエコパークで進めるまちづくりについて学んだ研修会

勉強会

- ・5月8日、勉強会スタート
- ・全職員から45名の申込有
- ・1班9名、5グループに編成
- ・グループごとに研究テーマを決定
- ・グループごとに課題解決に向けた研究や研修を進める
- ・最終的に報告会を実施

職員の 人材育成

研修会

- ・町内の有識者などを迎えて月1回開催
- ・全職員対象
- ・4月17日 講師/前教育長 齋藤修一氏
- ・5月23日 講師/ブナセンター長 新国勇氏
- ・6月26日 講師/南会津地方振興局長 金子隆司氏

― 2本柱で実施する

只見町プロジェクト

只見町プロジェクトは、町が抱える人口減少などの様々な課題を克服していくために、副町長が事業全体を統括し、「職員の人材育成」と「プロジェクトチーム」の2本柱で本年4月から取り組んでいます。

このプロジェクトのポイントは、これまでの役場の縦

断り組織にとられない、横断的な手法にあります。この手法により、多角的・多面的な思考を引き出し、組織全体の強化を図ることを狙います。

― 2本柱の1つ

①職員の人材育成

職員の人材育成は、「地域づくりは人づくり」であるとの信念のもと、職員のスキルアップを目的に実施しています。人材育成は、アンテナを高くし、町民の声を聴く力を養い、そして知識を持った職員を育成します。さらには、異なる

部署との交流により、新しい発想を見出すことを狙います。

この人材育成は「研修会」と「勉強会」の2事業で行われています。研修会は月に1回、町内の有識者などを講師に迎え、まちづくりに対する思いや仕事に取り組み心構えなどを学び、これまで3回実施し多くの職員が参加しています。

また勉強会は人口減少、観光交流、子育て、教育、八十里越、JR只見線などの課題をピックアップし、職員の意向を踏まえて各部署の隔たりを越えたグループ分けを行い、グループごとに課題解決に向けて研究や研修などを進め、最終的には研究成果の報告会の開催を計画しています。

職員は、町の課題と向き合いながら、それぞれの立場からの視点で意見を出し合い、人口減少の克服を目指して積極的な議論を展開していきます。



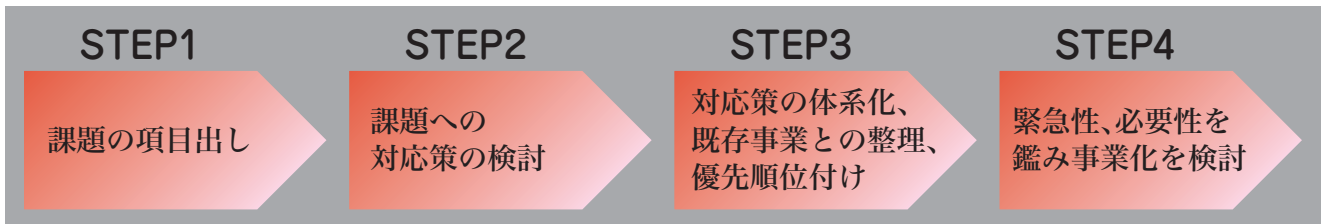
▲暮らし部会に参加する職員



▲庁議構成員で構成される人口減少対策部会



▲【図3】プロジェクトチームのフローチャート(テーマ、課題、構成員)



▲【図4】プロジェクトチームの進め方

チームは、課題を共有するとともに解決に向けた多角的な検討を進め、効果的・効率的な施策の方向を決定します。各部署に対しては検討結果をフィードバックし、役場全体で施策の方向に沿った具体的な施策を構築していきます。

課題解決のテーマは施政方針のとおり「人口減少」、「八十里越」、「観光交流」とし、チームの構成は「人口減少対策部会(全体会議)」、「暮らし部会」、「交流部会」の3部会で、全て副町長が統括リーダーを務めています。

このプロジェクトチームは、只見町役場の総力を挙げて様々な課題に対応していくことを目的に設置されたもので、従来の縦割りによる役場組織の行政手法ではなく、組織の隔たりを越えた庁内横断的な検討・推進体制を構築して進められています。

②プロジェクトチーム
このプロジェクトチーム

人口減少対策は、町長である私にとって最大の使命と認識しています。そのような中、この4月から始まった「只見町プロジェクト」は、副町長や若手・中堅職員を中心に取り組まれているものであり、大いに期待しているところでもあります。町の将来に向けて、熱心な議論がなされることをお願いし、私もその声にしつかりと耳を傾け、全力で人口減少に取り組んでまいります。

- interview -



只見町長 菅家 三雄

本町の人口は、昭和30年の田子倉ダム建設時代の13、106人をピークに、ここ60年ほどで約3分の1に減少するなど急激に少子高齢化・人口減少が進んでいます。それらは町の教育・福祉・産業など様々な分野に影響を及ぼすものであり、今や町の最大の課題と言えます。

— interview —

プロジェクトチームのメンバー。 それぞれに只見町の未来にかける思いを聞く—



人口減少対策部会、 くらし部会、交流部会

地域創生課
係長 吉津 瑞穂

この事業は、多くの職域の職員が集まるのでいい刺激になります。町の課題は様々ありますが、まずは一番身近な課題に取り組みたいと考えます。今できることをすぐ実践するスピード感が大切です。そして継続すること。只見に暮らす人が安心して暮らせる環境をつくるのが、ひいては人口増につながると思っています。もちろん役場だけではできません。民間の方々と協力しながら取り組んでいきたいです。



くらし部会

町民生活課
酒井 文高

全国的に人口減少の傾向ですが、只見町よりも条件不利な所で人口が増加している町村もあります。他の町村にできて只見町にできないことはないと思っています。それには、町が一丸となって取り組まなくてはならず、また、町内外の多くの方の協力が必要です。

目標として、只見町で待機児童が出るくらいの人口増を目指して努力したいと思います。30年後の只見町のために。



くらし部会

教育委員会
菊地 明

「人口減少」は私たちが感じているよりもかなり深刻で、待ったなしの課題だと考えています。その対策は、福祉、教育、交通など多岐に渡り、優先順位を付けて取り組む必要があります。

また、国道289号八十里越の開通は只見町にとってターニングポイントになるものと思っています。その機会を捉え、魅力ある只見町を子ども達に残せるよう取り組んでいます。



交流部会

観光商工課
鈴木 徹

JR只見線復旧や国道289号開通が数年後に見込まれるなど、今後只見町を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。特に観光面では交流人口の拡大に向けた受け入れ態勢の整備が求められています。

プロジェクトチームでは、一人の職員としてだけでなく、只見町で生活をする一人の町民として只見町の発展に向けて全力で取り組んでまいります。

只見町に着任して1年余り。この町の魅力とポテンシャルを感じています。人口減少・高齢化など町を取り巻く課題は多いですが、全国有数のブナ林に代表される雄大な自然環境など地域の宝も沢山あります。今後、JR只見線の復旧や国道289号八十里越の開通が見込まれるなど町の将来を左右する重大な出来事が続きます。それらをしっかりと追い風にしていくために、町職員全体の底上げ、総合力の発揮が求められます。そのために、今回のプロジェクトをスタートさせました。若手・中堅職員を中心に明るい雰囲気の中で熱意ある議論が進められています。引き続き、職員のやる気と元気を最大限引き出し、課題解決に向けて全力で取り組んでまいります。

- interview -



副町長
橋本 晃一


子や孫の世代
それ以上の
未来の世代に
つないでいく――

――人口減少の克服を

目指して――

急激に進む人口減少。国も東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけるために「地方創生」として、地方がその特徴を活用して自律的かつ魅力ある社会を築くための取り組みを行う自治体を支援しています。とはいえ、近年の社会の変化などにより、若者の未婚問題や子育て環境の悪化などにより、さらに少子化が進むと予想されており、極端な人口の増加は非常に難しいと考えられています。

このような状況の中、只見町人口ビジョンでは、今の人口減少のペースを抑制していくことで、2040年の人口「3,000人台」を目指すとしています。この目標を達成するためには、新しい人の流れをつくり、安定した雇用を創出し、若い世代の結婚・出産・子育てができる安心して暮ら



せる町づくりが必要不可欠です。そのためにも、只見町プロジェクトを進め、具体的な対策を見つけていくことが重要です。

― 只見町を未来に

向けてつなぐため ―

只見町プロジェクトをスタートしてから約3カ月。今すぐに結果や効果を出すことは難しいかもしれませんが。しかし、大切なことはあきらめず継続し、歩みを進めていくことです。

子や孫の世代、それ以上の未来の世代にしっかりとバトンをつなぎ、只見町がいつまでも存続できるよう、町の未来を考え行動し、守っていかねばなりません。只見町の未来を考える「只見町プロジェクト」が今、その第一歩を踏み出しました。

湖岸マラソン同時開催

自然首都
只見
Topic.1

第7回 トリムウォーク&トリムラン



▲3.5km をスタートする参加者の皆さん



ののむら まこと
野々村真さん

特別
ゲスト



かざましんじ
風間深志さん



▲10kmの参加者と一緒走る特別ゲストの野々村真さん



▲入賞者に手渡された、合同会社ねっか制作の木製メダル

▲世界・ふしぎ発見!などのレギュラー番組で活躍。国内外のマラソン大会に出場

▲オートバイで史上初の南極・北極点に到達した冒険家。現在は地球元気村村長

6月17日、自分のペースで申告タイムを目指す競技「トリムウォーク&トリムラン」と速さを競う「湖岸マラソン」が只見雪むろまつり会場をメインに開催されました。コースは、只見駅前広場を発着地点に只見川河畔や只見湖周辺を巡る3・5km、6km、10kmのコースで行われ、首都圏など町内外から約210名が参加しました。特別ゲストには、タレントの野々村真さんと冒険家の風間深志さんを迎え、野々村真さんが10kmコースに出場し、参加者と一緒に交流しながら走りまわりました。

今大会では、只見町の鈴木直記さん（上町）が誤差0秒というこれ以上ない好記録でトリム部門の総合優勝を飾りました。また、今回は仮装部門の参加者が多く、優勝を飾ったガチャピンのほか、仮面ライダーなどの姿が見られ、大会は大いに盛り上がりました。



▲各自のペースで楽しみながら歩く参加者の皆さん



▲野々村真さんとゴールを喜んだ仮装部門参加者の皆さん



▲表彰式で賞状やメダルなどを受け取ったトリム部門総合優勝の鈴木さん



▲雪むろ開封のために雪を掘り起こす子どもたち



▲約3ヵ月間雪むろの中で保存した野菜や酒類を取り出す皆さん



▲多くの来場者で賑わった雪むろまつり

自然首都
只見
Topic.2

雪むろ貯蔵の味を楽しむ

第4回 只見雪むろまつり



▲来場者に振るまった柏市産の大根や人参などの雪むろ野菜



▲餅つきに挑戦する児童



▲米焼酎ねっか、岩泉、どぶろくの試飲をする来場者の皆さん

トリムイベントと同日、只見駅前広場で「只見雪むろまつり」が開催され、約300名が来場しました。この雪むろは、今年2月に開催した「只見ふるさと雪まつり」の雪を再利用しているもので、中にはふるさと交流都市の千葉県柏市産の大根や人参などの野菜、町内産の米、そして米焼酎ねっかや岩泉、どぶろくなどの地酒を入れて約3ヵ月間貯蔵しました。

イベントでは、来場者と一緒に雪むろの雪を掘り起こし、雪むろ野菜の振る舞いや雪むろ地酒の試飲などを行ったほか、宝生流只見謡曲研究会松楓会による謡や町内高校生によるライブなど多くの催しが行われました。野菜や地酒などを味わった来場者からは「野菜が甘い」、「酒の味がまろやか」などの感想が聞かれ、多く並んだお店の味とともに、食を楽しんでいました。

JR只見線「起工式」・「改正鉄道軌道整備法」

JR只見線の復旧工事始まる



― 金山町で起工式

只見線再開通の第一歩

6月15日、一部区間が不通となっているJR只見線の復旧工事の起工式が金山町大塩グラウンドで行われ、会津17市町村の首長やJR東日本（以下、JR東）幹部、工事関係者など約70名が出席しました。

只見線は、2011（平成23）年7月の新潟・福島豪雨の影響により、橋梁が流失するなど甚大な被害を受け、金山町の会津川口駅と只見駅間の27・6キロが不通となっています。豪雨災害により壊れた橋梁や線路の復旧を進め、2021年度中の運行開始を目指します。

起工式では、主催者を代表

し、JR東の石川明彦常務が「県や沿線自治体と連携し、実施可能な取り組みを進めていきたい」とあいさつし、内堀雅雄知事が「只見線は地域の宝であり福島県の宝。日本一の地方創生路線となるよう利活用に取り組んでいきたい」と述べました。また、長谷川盛雄金山町長は「本日、起工式を迎えられたことは奥会津地方の住人の一人として感無量です。只見線の復旧が全国のローカル線の希望になれるよう取り組んでいきたい」と述べました。

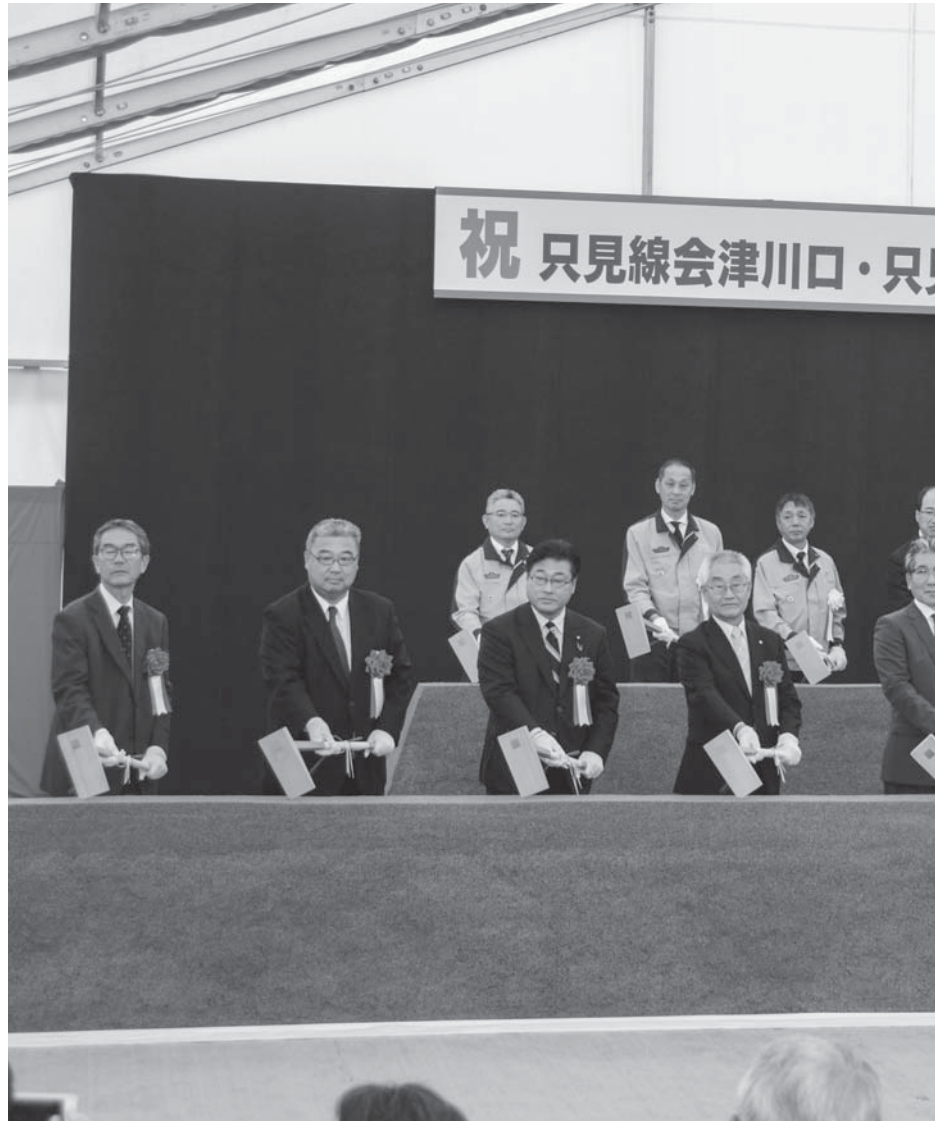
最後に、菅家町長のほか、内堀知事、長谷川金山町長、吉田栄光県議会議長、菅家一郎衆院議員など20名によるくわ入れが行われ、工事の安全を祈願しました。



▲只見線全線復旧の第一歩を喜んだ左から
小林昭一県議会議員、菅家町長、菅家一郎
衆議院議員、長谷川金山町長



▲これから工事が始まる第8只見川橋りょう
(寄岩)



▲復旧工事の安全を祈願して出席者とともにくわ入れをする菅家町長
(前列左から4人目)

― 会津川口・只見間の

鉄道復旧工事の内容 ―

J R 東は起工式と同日、不通区間の会津川口・只見駅間の復旧工事を開始しました。J R 東によると、復旧工事は3年後の2021年度中の完了を予定しており、橋脚などが流された第5〜7只見川橋梁(金山町)では橋脚や橋桁の復旧工事を行い、第8只見川橋梁(只見町)では橋脚の補強などを行う予定です。また、会津蒲生・只見間では流入土砂の撤去や軌道・信号通信ケーブルなどの復旧工事が予定されています。工事完了後は数カ月間の調整の後、運行を再開します。

― 黒字会社も支援

鉄道軌道整備法改正 ―

大災害で被災した鉄道の復旧支援を拡大する改正鉄道軌道整備法が同日、参院本会議で全会一致で可決、成立となりました。これまで対象外だったJ R 東など黒字の鉄道事業者にも国の財政支援が可

能となり、只見線の復旧費の

地元負担は半減する見通しとなりました。補助率は復旧費の4分の1ですが、県が路線や駅舎などの鉄道施設と土地を所有し、J R 東が車両の運行を担う「上下分離方式」を採用する只見線は特例で3分の1となります。J R 東と県は只見線の復旧費用81億円について、J R 東が27億円、残る54億円を県と会津地方17市町村が負担する内容で合意しています。改正法により国から27億円の補助が受けられるため、地元負担は27億円になる見込みです。

― 今後の課題 ―

復旧後は、上下分離方式による年間約2億1千万円に上る維持管理費を、県と地元市町村で負担するため、財源確保や利用客の増加などが大きな課題となります。

県や地元市町村では連携を図り、只見線の利活用に向けた取り組みが今から進められています。

黒谷の民家から発見された第一級資料

「神皇正統記只見本」が県重要文化財に指定

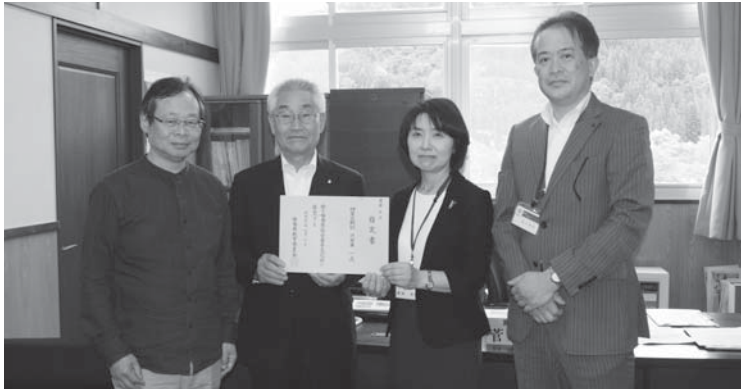
じんのうしゅうとつき

黒谷の民家で発見された南北朝時代の歴史書「神皇正統記只見本」が4月3日に福島県重要文化財に指定され、6月11日に役場で指定書の伝達式が行われました。

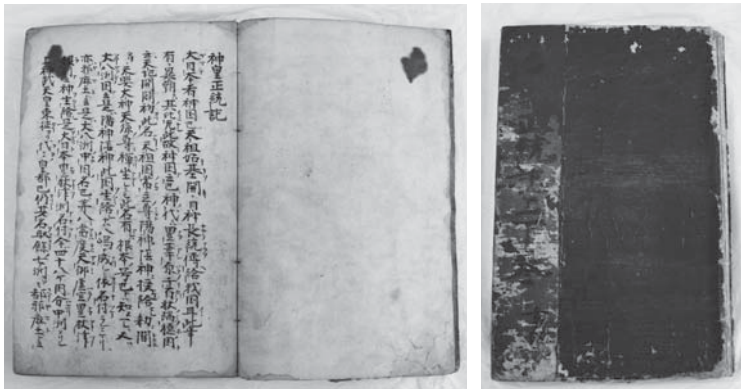
この神皇正統記只見本は、1587年(天正15年)に玄純房祐俊が書き写した写本で、多くの漢字に振り仮名が付けられており、当時の読み方が分かる日本の文化史上でも貴重な

古典籍となつています。また、冊子のとし方も「綴葉装」という手法が用いられ他の写本にはない特徴があります。

伝達式では、福島県教育庁文化財課の鈴木俊明課長から菅家町長へ指定書が手渡されました。神皇正統記只見本は、中世の只見の文化を知る貴重な資料として活用されていきます。



▲指定書を手にする町長(中左)と渡部教育長(中右)、指定書を手渡した県教育庁の鈴木課長(右)、同席した東洋大学の久野講師(左)



▲県重要文化財に指定された「神皇正統記只見本」

内堀福島県知事が只見町に来町

町関係者との意見交換と町内施設を視察

6月27日、内堀雅雄福島県知事が只見町に来町され、町関係者との意見交換、合同会社ねっかと河井継之助記念館の視察を行いました。

ただみブナと川のミュージアムで行われた内堀知事との意見交換会では菅家町長、橋本副町長、渡部教育長、齋藤議長が出席し、復旧工事が始まったJR只見線や町の事業であるブナ林フォーラム、只見町プロジェクト、ESD教育など9項目について意見交換されました。只見線について、菅家町長は「復旧が決まりこれからが正念場」と述べ、内堀知事は「只見線には可能性があ

る」とし、ローカル線で人気の高い秋田県の五能線を見本に、「海の五能線・山の只見線」を目指したいと述べられました。

視察で訪れた合同会社ねっかでは脇坂斉弘代表社員の案内で蒸留所とテイステイングルームを見学し、米焼酎ねっかを試飲しました。内堀知事は「香りが高くやわらかい味わい」と話されました。また、河井継之助記念館では、終焉(しゅうえん)の間やガトリング砲などの説明を受け、戊辰150周年における只見町の歴史に触られました。



▲合同会社ねっかのテイステイングルームでねっかの皆さんと語る内堀知事(右)



▲河井継之助記念館を視察した内堀知事と町関係者の皆さん

旬の味を堪能

第22回山の幸山菜まつり開催

6月3日、塩沢区・十島区山菜まつり実行委員会が主催する「山の幸山菜まつり」が塩沢農村公園で開かれ、町内外から約100名が来場しました。

開会式では矢沢友二塩沢区長が「今年の山菜は天候不順の影響が心配されたが無事今日を迎えることができた」とあいさつし、菅家町長が「その年々の山菜の味を堪能してほしい」と祝辞を述べ、酒井右二副議長の発声で乾杯しました。会場では、わらびやうどなどが入った山菜汁が振る舞われ、山菜の天ぷらやハヤの唐揚げなどが販売されました。来場者は、旬の味を堪能していました。



▲多くの来場者で賑わった山菜まつり

気象業務の発展に寄与

只見町が気象庁から感謝状

6月11日、気象庁から町が委託を受けている気象観測業務に対する感謝状伝達式が役場で行われました。これは、長年にわたり只見地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し、気象業務の発展に寄与した功績が認められたもので、南会津郡内では館岩・檜枝岐地域気象観測所とともに選ばれました。只見町の観測所は只見字原地内にあり、気象観測機器などが設置されています。

伝達式では、福島地方気象台の中村雅基台長が菅家町長に「気象業務の発展にご協力いただき感謝いたします」と感謝状を手渡しました。



▲感謝状を手渡した中村台長(右)と受け取った菅家町長(左)

スキー協会での栄誉称える

鈴木章二さんに功労者賞

6月19日、只見町体育協会が主催する「加盟団体表彰」において、只見町スキー協会の鈴木章二さん(沖)が加盟団体功労者賞を受賞しました。これは、体協会員として生涯スポーツなどの振興に大きく貢献された方を表彰するもので、3年前から始まりました。鈴木さんはスキー協会やスキースポーツ少年団の発足などに大きく寄与され、選手の育成や只見スキー場の運営などに尽力し、スキー協会長も歴任されました。自宅で行われた表彰式では、鈴木好行体育協会長から鈴木さんに表彰状が手渡され、その栄誉が称えられました。



▲表彰状を手にする鈴木さん(中右)と妻のサナエさん、鈴木会長(右)、渡部教育長(左)

モニタリングポスト撤去に意見

只見町で県内初の住民説明会

6月25日、県内の放射線量測定装置(モニタリングポスト)を一部撤去する方針を示している原子力規制委員会の説明会が只見振興センターで開かれ、町内外から22名の方が出席しました。

方針決定後初めての住民説明会となった只見町では、町内に設置する9台のうち7台が撤去対象であることなどが説明され、町民や学校関係者などから「原発問題が収束していないのに撤去はありえない」「事故を風化させないための教材になっている」などの意見がだされました。

規制委は今後、県内18市町村において説明会を開く予定です。



▲原子力規制委員会の武山松次監視情報課長の説明を受ける参加者の方々

只見四名山の山々を堪能

「蒲生岳・会津朝日岳・浅草岳」で山開き開催！

「20周年を迎えた蒲生岳山開き」

6月3日、蒲生区と蒲生集落活性化委員会が主催する「蒲生岳（標高828m）」の山開きが行われ、約250名が参加しました。今年で開催20周年を迎える蒲生岳の開山式では、馬場永好区長が「蒲生岳は地元集落が登山道を整備し、山開きを開催しています。平成13年の山開きでは故田部井淳子さんが一緒に参加され、『会津のマッターホルン』と絶賛されました」とあいさつされ、菅家町長が「只見四名山の中でも唯一地元が主催する山開きであり、町の観光振興に多大なご協力をいただき感謝いたします」と祝辞を述べました。開山式後、参加者は集落の方々が管理する登山道を踏みしめ山頂を目指しました。



▲蒲生集落を背に岩場を登る参加者の皆さん

「残雪の残る会津朝日岳」

6月10日、只見ユネスコエコパークの核心地域に位置する「会津朝日岳（標高1624m）」の山開きが行われ、約200名が参加しました。開山式では、只見町観光まちづくり協会の大塚純一郎副会長が「会津朝日岳は、只見ユネスコエコパークの核心地域に触れることができます。今年は積雪が多かったため残雪が多い状況ですので、十分に注意して安全に登山を楽しんでください」とあいさつしました。今年は雪崩による大量の倒木が見られたほか、山頂直下では多くの雪渓があり、参加者は只見ユネスコエコパークの大自然を感じることができました。



▲山頂直下の雪渓を登る参加者の皆さん

「只見沢・入叶津を縦走する浅草岳」

6月24日、只見4名山の最後を飾る「浅草岳（標高1585m）」の山開きが行われ約250名が参加しました。開山式では、菅家町長が「雪食地形や鬼ヶ面山、田子倉湖など浅草岳特有の景色を楽しんでください」とあいさつしました。山開きは、田子倉側の只見沢登山口から登り、山頂から入叶津登山口にするロングコースで行われました。今年は例年より雪解けが早かったため、ヒメサユリなどが多く見られ、登山者を楽しませていました。そして、下山後は甘酒などが振舞われ、参加者は記念バッチを手に踏破の疲れを癒していました。



▲晴天により山々が一望できた天狗の遊び場付近

梁取在住の山内アヤメさん 満百歳で知事賀寿を贈呈！

6月11日、梁取字沖在住の山内アヤメさんが百歳の誕生日を迎えられ、ご家族同席のもと知事賀寿贈呈式が同日、自宅で行われました。贈呈式では、県から知事賀寿状と記念品、町からはお祝い金などが贈られ、長男の征也さんが「これからも家族一同支えあっていきたい」と謝辞を述べられました。

アヤメさんは子ども2人、孫8人に恵まれ、今でも畑仕事や散歩をし、新聞を読んでいます。長寿の秘訣は1日3食しっかり食べることで、肉や魚などが好物と話されました。



▲6月9日に行われたお祝い会で親族などに囲まれ祝されるアヤメさん(中央)

黒谷集落の自然や歴史に触れる 「さなぶり健康ウォーキング」開催！



▲黒谷集落の魅力に触れた参加者の皆さん

6月3日、朝日地区地域づくり委員会が主催する「さなぶり健康ウォーキング」が開催され、32名が参加しました。

今回は、黒谷集落にある町指定天然記念物「黒谷川の大コブシ」や「岩下水路の記念碑」などを巡る約3.3Kmのコースで行われ、地元ガイドがその自然や歴史について説明しました。参加者からは「新緑のなか、朝日地区の自然と歴史に触れ、地域の魅力を発見できた」との感想が聞かれ、健康づくりの推進と地域の魅力を体感できるイベントとなりました。

新緑の癒しの森を散策 「第2回明和ふるさとハイキング」開催！

6月3日、明和自治振興会が主催する「第2回明和ふるさとハイキング」が癒しの森で行われ、約30名が参加しました。

癒しの森ハイキングは、戸板山眺めまで行く往復約2.2Kmのコースで行われ、案内人がブナの倒木がある交流広場などで自然についての説明をしました。

ハイキング終了後には、森林の分校ふざわで豚汁などが振る舞われ、参加者は美味しい豚汁を味わい、ブナの新緑を楽しみました。



▲新緑の癒しの森を楽しんだ参加者の皆さん

手作りパンフレットで只見の魅力を発信！ 町内3小学校の修学旅行でPR活動

6月7～8日、只見・朝日・明和の3小学校6年生43名が、修学旅行で訪れた東京都内において只見町のPR活動を行いました。

このPR活動は2年前から3小学校合同で実施しており、児童たちはPR活動に向け学校の先生方を通行人に見立て、何度も練習を重ねてきました。当日配る手作りのパンフレットも、児童たちが只見町の自然や特産品などの魅力をイラストや写真を使って分かりやすく制作しました。

当日は、黄色い法被をまとった児童たちがお台場や上野などで手作りのパンフレットを配り、「只見の自然は豊かです」「地酒やマトンケバブ、手作りプリンがお勧めです」など堂々とPRしていました。児童たちは活動を通して郷土の魅力を再確認していました。



▲手作りのパンフレットを配る児童(左)

只見町公認自然ガイドの育成研修を一般公開 只見町ブナセンター 講座と観察会を開催！

「ブナセンター講座」



▲環境教育の実践を学ぶ参加者の皆さん

6月16日、「雪ふる里山を舞台とした環境教育の実践」と題したブナセンター講座が同施設で開催され、只見町公認自然ガイドや一般の方などが参加しました。講師に、十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロで学芸員を務める小林誠氏を迎え、只見町と同様に豪雪地帯にある松之山の里山をフィールドとした環境教育に関する事業を中心にご講話いただきました。

講座では、環境教育が地域づくりの一つの手段になることやそれを実践する知識などを学び、参加者は環境教育への理解を深めていました。

「自然観察会」

6月17日、布沢大田集落にある湿原「大谷地」とその周辺の多様な森林植生について観察する観察会が開催されました。大谷地周辺にはブナ林のほか、地域住民による過去の薪炭材利用などを経て成立したナラ林、雪解け水などで冠水する凹地に成立するヤチダモ林があり、それぞれの特徴や成立要因について説明がありました。前出の小林氏が、全国のブナの葉の大きさの変異やブナ林が水を蓄える所以などについて解説され、参加者は森林植生や過去の人とのかかわりを学ぶことができました。



▲ブナ林で説明を受ける参加者の皆さん

県総体スポ少剣道南会津大会 只見剣道スポ少が優勝！

6月9日、県スポーツ少年団南会津支部が主催する「県総合体育大会スポーツ少年団剣道競技南会津大会」が南会津町の伊南武道館で行われました。

総当たりで優勝を争った団体戦では只見町や南会津町から4チームが出場し、只見剣道スポーツ少年団が見事優勝を飾りました。

只見剣道スポ少は、8月5日に郡山市で開催される県大会に出場します。



▲優勝を飾った只見剣道スポ少の皆さん

平成30年度県学校歯科保健優良校表彰 4年連続で町内全小・中学校が受賞！



▲受賞報告に出席された皆さん(右から菅家町長、横山泰久只見中学校長、吉野徹只見小学校長、穴澤正志明和小校長、小林義弘朝日小学校長、渡部教育長)

県教育委員会などが主催する「平成30年度県学校歯科保健優良校表彰」において、只見小が優秀賞、明和小が努力賞、朝日小と只見中が奨励賞をそれぞれ受賞し、6月25日に各学校の校長が役場を訪れ、菅家町長に受賞報告を行いました。

この表彰は、保健歯科活動を通して児童・生徒の歯が健康に守られ、その取り組みが認められた学校に贈られるものです。町内全ての小中学校が受賞するのは今回で4年連続となります。

受賞報告では、学校関係者などによる日ごろの虫歯予防活動の取り組みが称えられました。

第7回頑張ろう東日本！ JR只見線応援チャリティーショー

6月24日、東日本大震災からの復興やJR只見線の復旧を応援する「歌と踊りのチャリティーショー」が季の郷湯ら里で開催されました。このチャリティーショーは夢広場(大倉)が主催するもので、埼玉県八潮市のほかに、昨年からは只見町でも開催しています。

公演は、昼の部と夜の部で行われ、夢広場でレッスンを重ねた町民などによる歌の披露、そして福島県出身の津吹みゆさんや島津悦子さんなどの演歌歌手が出演しました。夜の部では、夢広場の角田初美さんから菅家町長に只見線応援募金「28,808円」が手渡されました。



▲募金箱を手渡す角田さん(右)と受け取る菅家町長(左)

6月から新しい看護師さんが着任しました!

6月1日から4ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の渡邊みくさんです。中央病院では、循環器科と救命救急センターを経験されて今回着任しました。渡邊さんは旅行が趣味で、最近では東京ディズニーランドへ行ってきたそうです。また、小・中学校時代にはソフトボールをしており、ポジションはキャッチャーでした。朝日診療所に着任してからは、外来が初めてということもあり、様々なことが勉強になるそうです。「4ヶ月間お世話になります」と話す渡邊さんをどうぞよろしく願いいたします。



渡邊 みくさん
(出身/会津若松市)

広報ただみ診療所

朝日診療所
歯科医 齋藤 さゆり



「災害時にも口腔ケアを行いましょう」

連日、地震の報道がされていますね。地震や豪雨による自然災害や、火事・原子力・大規模事故などの様々な災害は、いつどこで発生するか分かりません。災害時は、口腔衛生状態の悪化や栄養不足、疲労などによる免疫力の低下から、肺炎、インフルエンザ、風邪などの呼吸器感染症を起こしやすくなることが知られています。この予防のために手洗いやマスクとともに、「口腔ケア＝歯みがきなどの口腔内をきれいにするケア」を行ってください。

口腔ケアの方法ですが、断水などで水が不足している場合には食後にお茶でブクブクうがいを行いましょう。少量ずつ口に含んで、数回行うと効果的です。液体ハミガキがあれば水のかわりに洗口に使ってください。歯ブラシがない場合、ハンカチなどを指に巻き付け、歯や歯ぐき、入れ歯についた汚れを擦って取ります。唾液は口の中の汚れを洗い流す効果がありますので、キシリトール

ルガムなどを噛んだり、食事もよく噛んで食べる事で消化も助けます。食べる・飲み込む機能の低下を防ぐためにも口の周りの筋肉を使って口の体操をしたり、耳の下、頬、顎下をあたためてマッサージをし、唾液の分泌を促しましょう。

災害時の備えとして、口腔のケア用品を準備していますか?いざというときの避難袋に歯ブラシ、液体ハミガキ、洗口液、デンタルフロス、キシリトールガム、入れ歯を使用している方は、保管のケースや入れ歯洗浄剤なども入れておきましょう。

発災後の非常時に十分な口腔ケアを行うことは、困難になることがありますので、平素より口腔内を清潔に保ちましょう。備えあれば憂いなしです。日頃のケアと準備で大切な家族、命を守りましょう。

地域おこし協力隊として 只見町山村振興協力隊

vol.44

けいた
渡辺 啓太



「共存」

私が住んでいるアパートには6月から9月だけ短期滞在する移住者がいる。彼らは冬が来る前にどこか遠くの地へ飛んで行き、来年のこの時期になると巣に戻ってくる。去年と同じように、部屋の窓から彼らが楽しそうに舞い踊る姿を見ていると、懐かしい友人に再会できたようでとても嬉しく思う。

1年前の話だ。日差しが暖かくとても気持ちの良い日だった。私は只見川沿いの土手に腰かけ昼食を食べていると、年老いた男性に声をかけられ、話しをした。私は

自身の出身や今の仕事を説明し、男性は生まれた時から只見で暮らし、最近では孫がゲームに夢中でちっともかまってくれないことを嘆いていた。とりとめもない世間話をした後、私が只見の自然はとても美しいと言うと、昔はこの川で魚も獲れていたが、今は川が汚され、魚の数も減り、この川ではもう見ることが出来ない魚もいることを教えてくれた。「人間はすべてを喰い尽くす」。はっとするような鋭い声だった。男性の目は厳しくもあったが、どこか淋しそうだった。それ以上私たちは会話をせず、ただ川の流れを見つめ続けた。もう、あの男性は記憶の中でおぼろげである。しかし、あの声はまだ耳に残っている。

只見 ぜんめえ物語 ③

— ぜんまい栽培 —

入叶津の茅屋根職人・佐藤恒雄さん昭和十年生は、三〇代から妻のトキエさんとともに約三〇年間連続で泊まり山を続けてきました。入叶津の誰もが一目置くぜんまい採り名人です。また、只見町でぜんまいを山から畑に降ろした先駆者でもあります。今回はそんな恒雄さんのぜんまい栽培のエピソードを紹介します。

人「星元」の主人のアドバイスでぜんまい栽培を試みました。当時、星元は四国地方(中でも祖谷)から大量に栽培ぜんまいを仕入れていたので、恒雄さんにもそんな話を持ち掛けてきたのです。

四年目までは番線のようなぜんまいが出るばかり。ところが、五年目以降はそれまでとは一変して一年目の様な立派なぜんまいが毎年出るようになってきました。

長い経験を持つ恒雄さんは、つぎのように分析します。「一年目に極太のぜんまいが出たのは、大きなカブツに山でしっかりと蓄えられた養分があるからだ。しかし、二年目から四年目は貯えられた養分が少なくなり、自力で畑から養分を吸い上げようとするが、根が十分に成長できていないのとぜんまいが畑の環境に十分馴染めていないために貧弱なぜんまいしか出ない。一方、五年目以降になると、根がしっかりと畑に広がり、平地の環境にも順応してくるので、多くの養分を吸収し極太のぜんまいを生み出すことができるのではないか」。

び、中には本気でぜんまいのカブツを山から畑に移植する人が幾人も出てきました。そして、昭和六〇年代から平成の初めにかけて多くのぜんまい畑が入叶津の至る所に出現しました。

現在(二〇一八年)では二反歩のぜんまい畑を管理するまでになっています。畑のぜんまいの中には、今年で四〇年になる(昭和五〇年頃移植)ものもあります。しかし、今もしっかりとたいぜんまいが出てきます。ただし、畑のぜんまいを収穫するときは一株当たり必ず二、三本残して採らなければなりません。つまり、ヤシナイドリ(養採り)には山以上に気を配らねばならないといえます。恒雄さんの畑のぜんまいは村人の関心を呼

び、中には本気でぜんまいのカブツを山から畑に移植する人が幾人も出てきました。そして、昭和六〇年代から平成の初めにかけて多くのぜんまい畑が入叶津の至る所に出現しました。



▲ぜんまいのカブツを掘り取る(イラスト:筆者)

四〇歳を超えた頃(昭和五〇年代)、新潟県小出のぜんまい仲買

人「星元」の主人のアドバイスでぜんまい栽培を試みました。当時、星元は四国地方(中でも祖谷)から大量に栽培ぜんまいを仕入れていたので、恒雄さんにもそんな話を持ち掛けてきたのです。

当初、ぜんまい栽培を始めた人の多くは、昭和一〇年前後の生れの人ばかりでした。今では、その多くが亡くなってしまい、後継者のいない畑が多くなっています。収穫する人もいない畑に毎春ぜんまいは顔を出します。中には極太ぜんまいもみられます。しかし、放置されたその畑を借りてぜんまいを採るという人は、ほとんど見当たりません。村の人にその理由を尋ねると、「今は昔のように大量にぜんまいを作ってもそれらをすべて買い上げてくれる仲買人がいない。知人が毎年少しずつ買求めてくれる程度だ。また、他人の畑を借りたら、放置しておくことも世間体上できない。したがって、除草作業もしなければならぬ。肥やしも入れなければならぬ。そうした手間と資金の負担はむずかしい」といいます。今年も誰に採られることもない畑のぜんまいが初夏の風に揺れていました。



町民文芸

只見短歌会

五月詠草

大塚栄一

指導

馬場 八智

傷痛み深夜目ざめし我が耳に救急車の音真下に聞こゆ

関谷登美子

亡き友の生前言ひし励ましの言葉時折浮かびてくるも

新国由紀子

朝より植ゑ替へ続きわが両手ゴム手袋にふやけて白し

目黒 富子

曾孫より覚へたてなる手紙きて文字も爺じも共に笑ふも

渡部ゆき子

ボーナスも定年もなき農に生き卒寿近きも野菜を作る

小倉キミ子

幾千の種を結ぶか畑の草夏の盛りに勢ひやまず

飯島小百合

曇り空に入所の方と花植えて外に出る楽しみまた一つ増す

渡部ヨリ子

ガラス窓に移る姿に鶴鴒は威嚇しながら何度もつつく

新国 洋子

石楠花の極まり咲ける裏庭に夕べ静かに五月雨の降る

(出詠順)

只見俳句会

六月例会

目黒十一

指導

都

野のやぶに野焼の煙こもり行く
春の蚊や手首の上を放れ行く

味代子

ポコポコと田に入り来たる初夏の水
草茂るポール沈めば子らの声

弘子

御下りをねだりて今朝も雀の子
若楓孫の記念樹背丈越す

恒夫

ダム風の揺らすえぞにう芭蕉の碑
万緑の湖底に深き露天の湯

礼

行く春や民家に琵琶と云う音色
夏の月仕舞忘れし軒の笠

穂

青大将見ぬ間に脱ぎし皮傍に
群生が傘を踊らす花昌蒲

修一

夕暮れて喉の欲するビールかな
雨音へゆつくりと飲む新茶かな

吉児

百寿得て医門叩かず夏を越す
粧ひて遙かに会津富士高嶺

幸生

岩肌を殊更白く夏の雲
春耕や訪れ早き獣跡

信

風を切る二の腕まぶし衣更
若き日や君のハミング若葉の頃

今月のお知らせ

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

税 今月の納期

- 7月25日までに納めましょう
- 固定資産税(2期)
 - 国民健康保険税(1期)
 - 農集排使用料(7月分)
 - 介護保険料(1期)

試験

只見町職員
(高卒程度・一般事務職)
採用候補者試験を行います

次のとおり、平成31年度只見町職員(高卒程度・一般事務職)採用候補者試験を行います。

● 試験職種及び採用予定人員

・一般事務職 若干名

● 受験資格(学歴不問)

平成6年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた者

● 試験の方法

- ① 1次試験
教養試験、一般性格診断検査、職場適応性検査、事務適正検査
- ② 2次試験(1次試験合格者)
小論文、面接による試験

● 1次試験の日時、会場

① 日時

・9月16日(日)

・午前9時受付〜午後2時30分

② 会場

福島県立田島高等学校

(南会津町田島字田部原260)

● 受験手続き及び受付期間

① 申込用紙の請求

申込用紙は役場総務課及び朝日、明和振興センターで交付します(郵送による場合は120円切手を貼った自分宛の返信用封筒角二号を添付すること)。

② 申込方法

申込用紙は役場総務課に持参又は郵送により提出する(いずれの場合も82円切手を貼った自分宛の返信用封筒角三号を添付すること)。

③ 受付期間

平成30年6月18日から8月10日まで(郵送による場合は、8月8日までの消印のあるものに限る)。

● 問合せ先

只見町役場総務課

☎0241(82)5210

南会津地方広域市町村圏組合職員採用候補者試験を行います(高卒程度)

次のとおり、平成31年度南会津地方広域市町村圏組合職員採用候補者試験(高卒程度)を行います。

② 会場

福島県立田島高等学校

(南会津町田島字田部原260)

● 試験職種及び採用予定人員

・消防 男女若干名

※消防署等で消火・救急・救助火災予防等の業務に従事します。原則として深夜業を含む交代制勤務となります。

● 受験資格(学歴不問)

① 平成3年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた者

② 普通自動車運転免許(AT限定免許を除く)の取得者又は取得見込者

③ 日本の国籍を有しない者

④ 地方公務員法第16条(欠格条項)に該当しない者

● 試験の方法

- ① 第1次試験(高卒程度)
教養試験及び適性検査
- ② 第2次試験(1次試験合格者)
個別面接及び作文試験

・体力測定

・身体検査

● 試験の日時、会場

① 1次試験

9月16日(日)午前9時受付

② 会場

福島県立田島高等学校

(南会津町田島字田部原260)

● 受験手続き

申込用紙は、南会津地方広域市町村圏組合事務局及び消防本部・消防署(出張所・分遣所)で交付します。必要事項を記入し、事務局まで提出して下さい。

● 受付期間

7月11日から8月10日まで(執務時間中に限ります)。郵送の場合も8月10日必着です

● 問合せ先

詳しくは、南会津地方広域市町村圏組合事務局まで

☎0241(62)0054

南会津地方環境衛生組合採用候補者試験を行います(高卒程度)

次のとおり、平成31年度南会津地方環境衛生組合職員採用候補者試験(高卒程度)を行います。

● 試験職種及び採用予定人数

・技能労務職 若干名

● 受験資格(学歴不問)

① 昭和58年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた者

② 日本の国籍を有しない者

③ 地方公務員法第16条(欠格条項)に該当しない者

● 試験の方法

- ① 第1次試験(高卒程度)
教養試験及び各種検査
- ② 第2次試験(1次試験合格者)
小論文及び個別面接

● 試験の日時、会場

① 第1次試験

9月16日(日)午前9時受付

② 会場
福島県立田島高等学校
(南会津町田島字田部原260)

● 受験手続き

申込み用紙は、同組合及び西部環境センターで交付しますので、必要事項を記入の上、提出して下さい。

● 受付期間

7月11日から8月10日まで(執務時間中に限ります)。郵送の場合は8月8日までの消印のあるもの限り受け付けます。

● 問合せ先

詳しくは、南会津地方環境衛生組合総務課まで

☎0241(67)2480

平成30年度の助成テーマが決定!

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業は、只見町の自然環境・生物多様性、歴史、民俗、産業に関する調査研究を行う研究者に対して助成し、それらの価値を科学的に明らかにすることで「自然首都・只見」ブランドの向上を目指すものです。さらに、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用も期待されます。今年度は、審査の結果、下記の5件について助成を行うことが決定しました。

なお、この事業は只見町ブナセンターと連携して行います。町内で只見町ブナセンターの腕章・ロゴを付けた研究者や車両を見かけましたら、本事業による調査中ですので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。年度内には研究成果発表会を開催し、町民の皆さまに研究成果をご報告いたします。

No.	研究テーマ	研究者代表	所属
1	多雪地域におけるブナの 個体間・個体内での展葉フェノロジー	西坂 志帆	横浜国立大学大学院
2	只見地域における 森林植生の遷移系列・動態と攪乱様式	菊地 賢	希少種保全研究会
3	伊南川の河川攪乱が ハリエンジュとヤナギ類の分布に及ぼす影響	庭野 元気	新潟大学
4	福島県只見町における地表徘徊性甲虫類調査	桑原 隆明	茨城キリスト教大学
5	只見町の植物資源における機能性物質の探索と応用	目黒 周作	茨城キリスト教大学

【お問合せ】 只見町役場地域創生課ユネスコエコパーク推進係
Tel. 0241(82)5220

町長スケジュール (6月分)

- 1日 森林管理署南会津支署長来庁、
只見町農業再生協議会総会
- 2日 全日本バレーボール小学生大会・会津大会
- 3日 蒲生岳開山式、塩沢・山の幸山菜まつり、
ブナ林フォーラム実行委員会
- 4日 議案検討庁議、郡山国道事務所長来庁、
県議等との懇談会(福島市)
- 5日 福島県町村会定期総会、
福島県鉄道活性化対策協議会総会(福島市)
- 6日 ブナセンター運営委員会、只見ユネスコエコパーク連絡
調整会議、朝日診療所医師等との懇談会
- 7日 只見川ライン観光協会総会、
奥会津五町村活性化協議会定例総会、
只見川電源流域振興協議会定例総会(柳津町)
- 8日 只見高等学校振興対策会議総会
- 9日 全国植樹祭レセプション(いわき市)
- 10日 全国植樹祭(南相馬市)

- 11日 百歳賀寿贈呈式、気象庁長官から感謝状伝達式、
南会津建設事務所長来庁、
福島県指定文化財指定書贈呈式
- 12日 只見町議会6月会議(~15日)
- 13日 消防操法競技大会出場選手激励
- 14日 JR東日本仙台支社長来庁
- 15日 只見線会津川口・只見間鉄道復旧工事起工式
(金山町)
- 19日 JR東日本本社次長来庁、臨時庁議
- 20日 南会津地方町村長視察研修(~22日高知市・徳島市)
- 24日 浅草岳山開き、頑張ろう東日本!つながれつながれ只見
線歌と踊りのチャリティショー
- 25日 一級河川只見川河川整備促進期成同盟会総会
(於:金山町)
- 27日 福島県知事との意見交換
- 29日 只見町職員労働組合定期大会
- 30日 佐藤信秋参議院議員との懇談会(柳津町)

町民の消息

(5月26日～6月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

青木 結依子(女/喜幸・陽子) 小川
 後藤 李 凧(女/洋英・彩) 黒谷
 若山 元(男/隆・由香里) 黒谷

■ご結婚おめでとうございます

福井 五十嵐一幸♡赤塚 美香 長浜
 大倉 横田 尚也♡目黒みなみ 只見
 布沢 藤沼 航平♡山崎 祐紀 栃木県

■おくやみ申し上げます

長谷部 ヨシミ	94歳	叶 津
目黒 岸 夫	72歳	只見
藤田 ヒサコ	80歳	只見
目黒 ユリ子	87歳	小川

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成30年6月1日現在

人口	4, 267 (+ 3)
男	2, 098 (+ 4)
女	2, 169 (- 1)
世帯数	1, 864 (+ 1)
高齢化率	45. 50%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 15 転出 6 出生 1 死亡 7

あとがき

▽4年に1度開催される2018 FIFAワールドカップ・ロシア大会が日本時間の6月15日に開幕しました。放送時間が深夜ということもあり、寝不足という方も多いのではないのでしょうか。

▽日本代表においては、前評判を覆す活躍を見せ、グループリーグを2位で勝ち上がり、2大会ぶりの決勝トーナメントまで進みました。決勝トーナメントでは惜しくもベルギーに敗れましたが、ベスト16という素晴らしい成績を取めました。

▽W杯の熱戦が繰り広げられるとともに只見町の気温も上昇し、6月下旬ごろからは一気に30度を超える真夏日となりました。W杯疲れなどによる夏バテに皆さん注意しましょう。

(三瓶)

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

生涯学習サポーター
浅野リサ

明和振興センター
図書室 ☎86-2111

おすすめ新着図書

★青くて痛くて脆い



住野よる/著 (KADOKAWA)

『君の臍臓をたべたい』でデビューし、本作『青くて痛くて脆い』は初めて大学生を登場人物とした作品であるとともに、ファンタジー色の強い過去作と一線を画し、「社会人になる数か月前」という不安定な時期の揺れ動く心情をリアルに描いた物語となっています。誰もが抱える心の小さな穴や、思春期のモヤモヤした感情をすくい上げるような

作風はそのままに、若い世代だけでなく“思春期との決別”を経験した人々にとっても響く作品となっています。

★星のゆうびんやさんハイタツマン



アキレスケン/著 (牧歌舎)

敵と戦うのではなく、武器そのものをみんなが笑顔になれるものに変えてしまう。そんな特技をもった、全く新しいタイプのヒーローが誕生しました。その名も「ハイタツマン」！この一風変わったヒーローを生み出したのは、「アキレスケンさん」。今まで絵本に触れる生活をしていただけではなく、ふとしたことから絵本に向き合ったという異色の作家さんです。平和への思いをこめたという『星のゆうびんやさん ハイタツマン』女の子に「世の中が平和になるように、願いを届けて」と頼まれたゆうびんやさんが、流れ星の力を借りて「ハイタツマン」に変身する物語です。

★明和振興センターではリクエストも随時受付していますので、ぜひご利用ください。

オオバボダイジュ

(学名: *Tilia maximowicziana*)

[シナノキ科 シナノキ属] ※科名は新しい分類体系(APG体系)ではアオイ科



▲オオバボダイジュ



▲荷綱(ニナ)



▲シナッカワを織り込んだバッグ

オオバボダイジュは、北海道から中部地方の山地に生育する直径1m、樹高20mを超える落葉高木です。葉も大型で葉身が18cmにもなり、葉の裏には放射状に伸びた毛が密生しピロード状の手触りがあり、色も白っぽく見えます。只見町では“シナノキ”と呼ばれますが、同じ仲間(シナノキ属)に別種としてシナノキという樹木も存在します。町内では、オオバボダイジュが山地溪流の谷底氾濫原に広く分布し、シナノキは谷壁斜面を中心に見られます。シナノキはオオバボダイジュに比べ葉裏に毛がないこと、葉が小型であることで容易に区別できます。

オオバボダイジュやシナノキは、内樹皮の繊維が丈夫で、昔から縄や紐などとして広く利用されてきました。内樹皮を利用するために、まず、地際で幹を伐採した後生じる若い萌芽幹を選び、5-6月の盛んに水を吸い上げる時期に樹皮を剥ぎます。剥いだ樹皮は沼などの淀んだ水に浸ける、あるいは灰汁で煮るなどの方法で内樹皮を柔らかくします。そして、沢などで洗い、繊維の層を剥がし、乾燥させて利用します。只見町では荷物を縛る紐やソリの引き縄のほか、畳表の縦糸としても利用してきました。そういった利用も今はほとんどありませんが、ヒロ口で編んだバッグの横糸などとして今もなお使用されています。

企画展

企画展アーカイブ「只見の手工芸」

今年度は、過去に行った企画展を振り返る企画展アーカイブを行います。第一弾は、只見の手工芸について、自然環境や利用される天然素材に着目しながら伝統技術によって作られたカゴやザルを中心に紹介します。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

期 間:7月23日(月)まで開催中

場 所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー